

市史編さんだより

第13回

『新編 桐生市史』編集委員
自然部会専門委員
寺内 優美子

「桐生の自然の変化 明らか」

自然部会は、地形・地質、動物、植物、キノコなどの種類や分布について調べています。黒保根村（現黒保根町）の合併により、赤城山の黒檜山（1828メートル）までが市域となり、

広沢町七丁目の渡良瀬川河畔（65メートル）との標高差は約1700メートルに及びます。地形的にも関東平野の北の端に位置し、地

質も複雑に入り組んでいます。このような自然条件が組み合わされることで、生物の多様性が生まれてきました。

昭和56年に「桐生市植物誌」、昭和62年に「桐生市動物誌」、平成24年に「桐生の地誌」が発行されていますが、それ以降のものはありません。今回、『新編桐生市史』の編さんにあ

たり、自然の変化も重要な視点となるため、自然部会で調査を進めています。

気候変動の影響は、生物にも現れています。チョウのツマグロヒヨウモンは、

近年、南から桐生地域に分布を伸ばし、市内で普通に見られるようになりました。一方でシカが増え、食害によって、見られなくなった植物もあります。

市民の皆さんが身近に見て、感じている自然を科学的に調査し、明らかにすることが自然部会に課せられた役割と考えています。

春秋の渡り鳥や桐生川や渡良瀬川の魚、赤トンボなど身近な生き物の変化や、アライグマなどの外来生物も調査し、まとめていきたいと思えます。

問い合わせ 市史編さん室
(☎477335)



▲ツマグロヒヨウモン（メス）



▲植物調査の風景

パチリいい顔 桐生っ子

市内に居住する3歳まで（申し込み時）の桐生っ子を募集します。

申し込み = Eメール（miryoku@city.kiryu.lg.jp）にお子さんの氏名（ふりがな）、生年月日、住所、保護者氏名、電話番号を記入し、お子さんの画像データを添付のうえ、魅力発信課（☎内線505）へ。



まえの きわ
前野 希和ちゃん
1歳3か月
（相生町一丁目）



うら あいり
浦 愛莉ちゃん
2歳6か月
（梅田町一丁目）



いしはら けいichiro
石原 圭一郎ちゃん
4歳2か月
（川内町二丁目）